

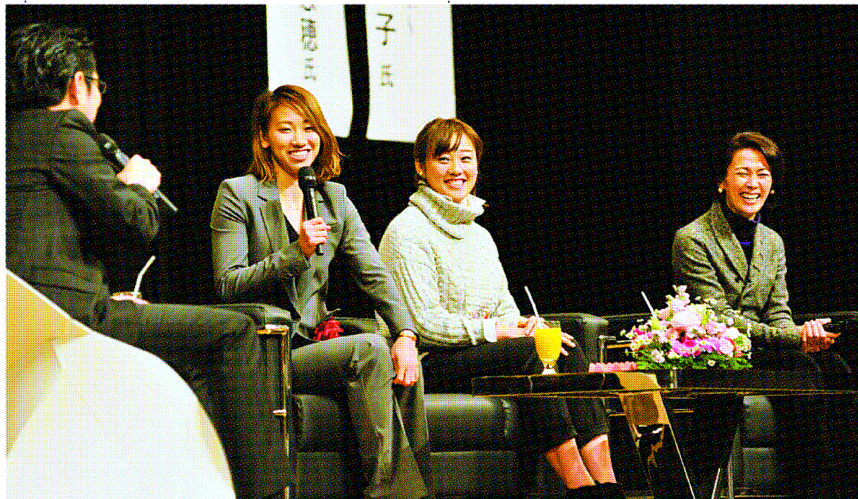
トークショーに臨む有森さん、石澤さん、福島さん（右から）。左は司会の栗谷さん

有森さん 福島さん 石澤さん

諦めない気持ち大切

帯建協100周年 五輪選手トーク

帯広建設業協会（秋原一利会長）の創立100周年記念講演会が28日、帯広市民文化ホールで開かれた。女子マラソン五輪メダリストの有森裕子さんが「よろこびを力に……私のマラソン人生」と題して講演。陸上女子1000m、2000m日本記録保持者の福島千里さん（幕別町出身）、スピードスケート元五輪日本代表の石澤志穂さん（中札内村出身）との五輪出場経験者3人によるトークショーも行われた。



有森さんは講演で、自身の小学校から高校時代を振り返り、「先生から一生懸命頑張るものを見つけることや、どんな状況でも諦めない気持ちを持つことの大切さを教えられた」と語った。また、「物事の入り口に『絶対、こつじゃなきゃいけない』というものはない。どんなものでも力にできる」と子供たちにエールを送った。

トークショーはFMMJ AGAの栗谷昌宏さんの司会で進行。福島さんは「北京五輪は自分の世界の位置が分かり、ロンドンを目指したが、思うような結果が残せなかった。リオデジャネイロ五輪は戦略的にやっていた部分があるので、満

足する結果が出せればよい」と話した。現在、帯広大谷短期大学生活科学科栄養士課程に在

学中の石澤さんは「管理栄養士を目指す。メダルという目標が過去にあったが、今度はメダルを取りたいと

いう選手のサポートに回りたい」と語った。会場には約900人が訪れ、熱心に聴き入った。（津田恭平）